

特集
2

がんゲノム医療に参入!

次世代シーケンサー

導入によって

キューリンは がん治療の一翼を担います!

これからもキューリン、キューリンパーセルは
地域医療に貢献します!

2019年1月、キューリンパーセルは「次世代シーケンサー」を導入しました。
3月末現在、本格稼働に向けて調整中ですが、ここにご案内します。

がんゲノム医療の現在

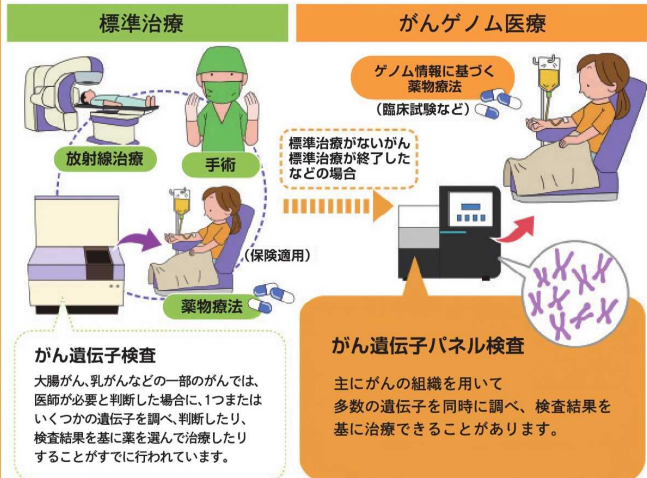
2016年、アメリカのオバマ大統領が個別化医療(Precision Medicine)の推進として多額の国家予算を投じることを表明しました。がんの領域において遺伝子情報に基づく個別化医療が「がんゲノム医療」です。わが国における「がんゲノム医療」は欧米に比べて立ち遅れており、国内の体制を整えるため、2018年、厚生労働省は「がんゲノム医療推進コンソーシアム」を立ち上げ、整備しているところです。

*がんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会報告書では、「がんゲノム医療」とは「がん患者の腫瘍部および正常部のゲノム情報を用いて治療の最適化・予後予測、発症予防をおこなう医療」と定義されています。

がんゲノム医療の連携に取り組みます

【参考】遺伝子情報に基づくがんの個別化治療

がんゲノム医療は、標準治療がない、または終了しているなどの条件を満たす場合に行われます。



出典) 国立がん研究センターがん情報サービス

がんゲノム医療は、右図に示すとおり、がんゲノム医療中核拠点病院、もしくは、がんゲノム医療連携病院が患者様の窓口となり、検査・診断・治療を行います。

キューリンパーセルは、このがんゲノム医療で使用する「次世代シーケンサー」を導入し、右図中の③ゲノム解析事業者としてがんゲノム医療に参入します。

次世代シーケンサーは高速で大量のゲノムの情報を読み取る解析装置であり、DNAシーケンサーに比べて一度に多くの遺伝子を調べることができます。また、従来よりも短時間(2週間~1カ月)に、安い費用で解析できる特徴があります。

この次世代シーケンサーを活用して1回の検査で多数の遺伝子を同時に調べ、患者様にあう薬があるかどうかを調べる「がん遺伝子パネル検査」が、この春にも保険適用される見通しから、今後ますますがんゲノム医療は発展していくものと思われま

がんゲノム医療の中核拠点及び連携する病院

厚生労働省が発表した山口県内と福岡県内のがんゲノム医療中核拠点病院は九州大学病院、がんゲノム医療連携病院は山口大学医学部附属病院、岩国医療センター、徳山中央病院、北九州市立医療センター、九州医療センター、九州がんセンター、福岡大学病院、久留米大学病院です(平成30年10月1日現在)。

がんゲノム医療を希望する患者様は、主治医に相談の上、がんゲノム医療中核拠点病院、もしくは、がんゲノム医療連携病院を受診し、検査・診断・治療を受けることになります。

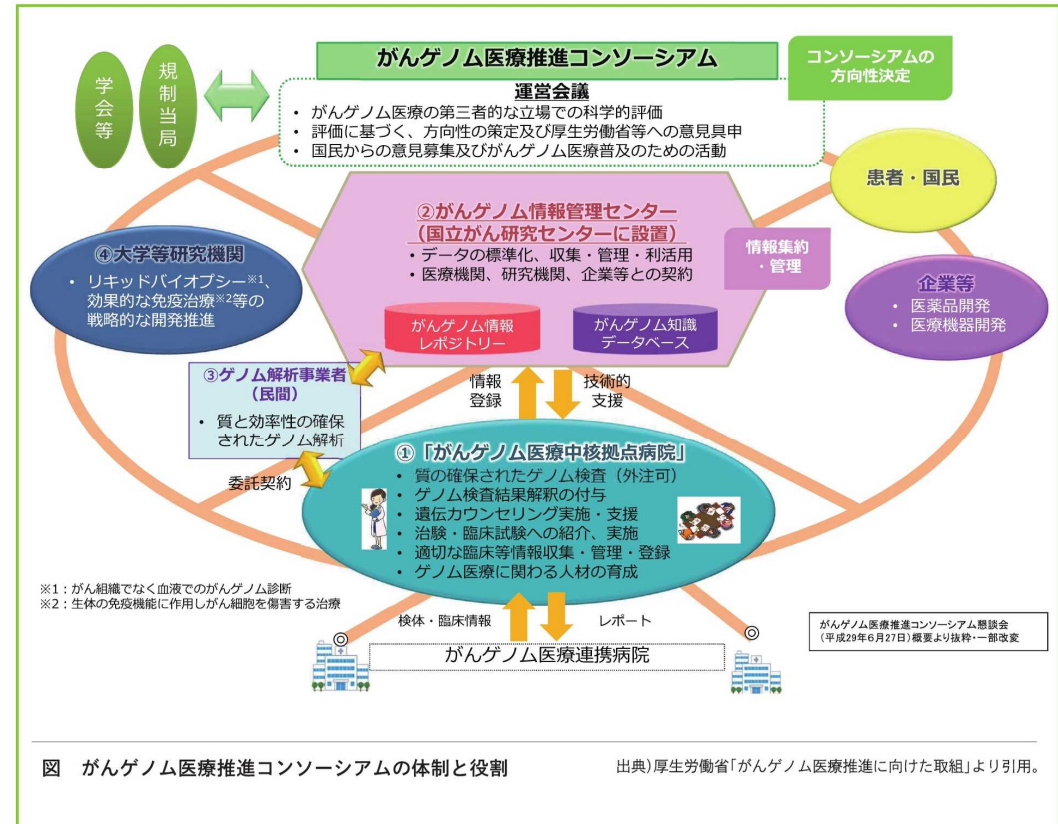


図 がんゲノム医療推進コンソーシアムの体制と役割

出典) 厚生労働省「がんゲノム医療推進に向けた取組」より引用。

本文参考) 国立がん研究センターがん情報サービス

文責: キューリンパーセル病理部 村田義隆